

大東中地域活動委員会

組合員ニュース

数えてみました家庭のプラごみ



私たちはプラスチックの恩恵を受けてる一方でマイクロプラスチックによる海洋汚染を引き起こしたり、焼却時にはCO2を排出するなど深刻な問題につながっていることを知りました。そこでまず日々の暮らしから考えるきっかけにプラごみを数えてみました。

実施団体；大阪府生活協同組合連合会
全大阪消費者団体連絡会
地球環境市民会議(CASA)

実施期間；2020年7月~11月

参加した皆さん；大阪府内43市町村のうち40市町、のべ383名、大東市は7名参加しました。60歳代以上37%、50歳代24%、40歳代25%、30歳代以下13%、ほぼ全員が地域購買生協の組合員でした。

調べた感想

プラごみの多さに気づいていなかった。多いと思っていた。
プラごみの分別については、不十分だった。間違っていた。

意識・行動の変化

無意識にプラごみをたくさん捨てていた。

使い捨ての物をどんどん使っていたが、減らすことにしようと思った
プラなしでは生活が不便になるか、プラに替わるものが必要なのか
消費者・生産者で減らす努力が必要ではないか

不要と感じたプラ

食品トレー
個別包装
使い捨て食器
使い捨てコンタクトレンズ
ペットボトルのラベル
食品ラップ（電子レンジ使用）

減らすための工夫

ペットボトルに入った物を買わないようにする
電子レンジのラップをふたなどに変える
レジ袋はゴミ袋として使っていたが、次回から紙袋などに変えよう
必要のない包みや袋は断るようしよう
行政には分別したプラごみがどのように再利用されているか聞いてみよう
生産者にはプラ包装に替わる物を使用して下さいと意見を言ってみよう

プラごみを数えて、意識するようになった人は57%でした。引き続きプラごみに関心をもって減らす努力をしていきましょうね